

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： 荒木 穂積
研究テーマ	東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究

I. 国際連携先の概要	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 人間科学研究所 (プロジェクト名) アジアの知的障害児・者の特別なニーズおよび支援プログラム開発に関する国際共同研究プロジェクト
共同研究機関	(機関名) ハノイ師範大学障害児教育学部 (代表者) Nguyen Thi Hoang Yen 学部長 (機関名) 蘇州大学ホーチミン師範大学障害児教育学部 (代表者) Huang Xin Yin 教授 (機関名) 星星雨教育研究所 (代表者) 田恵平所長
II. 研究計画の概要	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
<p>これまでの実績をもとに 2007 年度の文部科学省(学術振興会)「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」への申請を準備しつつ東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する研究ネットワークの構築をはかることを目的としている。また、JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)「知的障害児の就学率向上につながる教育プログラム開発を支援するプロジェクト」事業(カウンターパートはハノイ師範大学)と連動させて、院生・若手研究者レベルの研究交流を本格化させること。</p>	
III. 研究成果の概要	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>本学、人間科学研究所の「高機能自閉症およびアスペルガー症候群の教育的対応」プロジェクトおよび JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)「知的障害児の就学率向上につながる教育プログラム開発を支援するプロジェクト」事業と関連させて東アジアの障害児教育・福祉ネットワークの構築につとめた。当初の計画では、タイ、韓国を含めたネットワーク構築を予定していたが拠点大学をハノイ師範大学(ベトナム)および蘇州大学(中国)とし日本・中国・ベトナムの3か国の拠点大学を中心に発達障害児の治療教育プログラムの開発に取り組んでいるフィールドとの連携をはかってきた。その結果、「東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究」で「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」(学術振興会:2008年度～2010年度)の採択を受けることができた。また、日本での研究成果として、日本保育学会(2007年5月、十文字学園女子大学)、「東アジアの障害児教育・福祉シンポジウム」(2007年10月、本学)、「高機能自閉症児およびアスペルガー症候群児の学童期の発達特徴と教育的支援」(2007年12月、本学)、「発達障害者支援シンポジウム - 厚生労働省障害者自立支援調査研究プロジェクト - 」(2008年2月、舞鶴市)、日本発達心理学会第19回大会ラウンドテーブルで「第三者の共有と共同注意との関連性およびその成立過程をめぐって」(2008年3月、大阪国際センター)で企画・報告をおこなった。</p> <p>関連して、自閉症に関する外国文献の翻訳紹介、本学心理・教育相談センターでの事例報告を共同研究としてまとめた。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。